

子どもの本

研究会



【私の一冊】

『ビルマの堅琴』

竹山道雄 著

父はなぜ、この本を子どもの私に読ませたのか。

2023年に父は99歳で他界した。しばらくして実家の本棚で偶然見つけ、その理由を聞いておくのだったと悔やんだ。

本書は、第2次世界大戦の末期、ビルマ戦線でイギリス軍に投降した日本兵の1人、水島安彦上等兵を主人公とする児童文学である。堅琴の名手でもある水島は他の部隊を玉砕から救い、そのまま消息を絶つ。その後、日本兵の死骸を埋葬して回っていると、長い手紙で伝えてくる。部隊が日本へ立つ日、ビルマ僧になっていた水島に、隊員たちが日本語を教え込んだインコが「オーイ、水島。いっしょに日本にかえろう！」と呼びかける。隊員たちも口々に叫ぶ。しかし、ビルマ僧は振り向きもせず立ち去る。

戦死者の弔いのためにビルマ僧になって戦地に留まることを選んだ水島の生き方、本書の主題はそこにある。作者は、戦後すぐの頃、戦死者の冥福を祈る風潮はなく、悪口を言うのが正義派とされた中、義務を守って命をおとした人たちの心の奥にある負い目のような気持ちから書いたと語っている。それは戦後を生きている人たちの心の奥にある負い目のような気持ちではないか。

私が読んだのは、あかね書房の世界児童文学全集の1冊だった。父は書店の本棚にこれを見つけ、すぐに買って私に渡した。父は内容について何も言わなかった。家に帰るまでに一気に読み終えた。「水島。いっしょにかえろう」に対して「じぶんは、かえるわけにはいかない」とインコに言わせる水島の言葉が頭の中で強く響いていたことを覚えている。

父は晩年、少し認知症になっていた。亡くなる5年ほど前、厳しい顔で朝起きてきて、「命令が下った。これから戦地に行く。後を頼む」と私に言うことがあった。戦争は終わった、もう絶対にならないからと諭すと寝室に戻っていった。この時、下級将校として外地に行くはずだった父の心の奥を見た気がした。本書を私に与えた父の心の内面に、生き残った負い目ゆえに水島の生き方への深い共感があり、それを伝えたかったのではないかと、あの日の朝の言葉からいま思い返している。



居駒 永幸

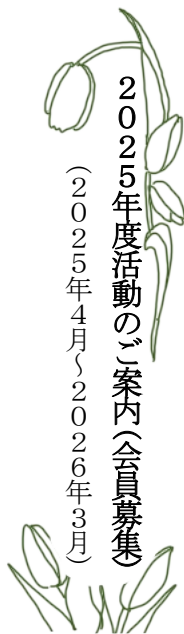


(明治大学名誉教授)



2025年度活動のご案内(会員募集)

(2025年4月～2026年3月)



熊本子どもの本の研究会は、「子どもにはなしを」本のたのしみを」をモットーに、4月より42年目の活動を始めます。開講講座から始まる講座活動に加え、昨年度に続き森正人・熊本大学名誉教授を講師に「日本の昔はなしを読む」と題した2回連続公開講座を開催します。本講座は、会員へのオンライン配信も行います。オンライン活動としては、「子どもと大人の読書会」、「グリム童話の魅力」に加え、今年から「昔話の基本文献を読む会」を始めます。おはなしボランティア「びわの木」の活動を継続するとともに、事務所に併設する「びわの木文庫」から、個人及び学童クラブ向けの蔵書の貸し出しを行います。隔月(奇数月)で会報「子どもの本」を発行し、ホームページ(HP)でも情報発信します。

活動の具体的内容は以下の通りです。詳細及び日程が決まっていないところは、今後、会報及びHPに掲載します。

2025年度におきましても会員としてご参加いただけますとともに、お仲間をお誘い下

さいますようお願い申し上げます。ふるさと納税経由も含め、寄付によるご支援もお待ちしております。

1 読書推進事業

① 開講講座

4月23日(水) 10時～12時

会場 熊本市立図書館集会所

今年度の活動紹介と「おはなし会」のためのミニ講座があります。会員以外の方も無料で参加できます。



② 【公開】連続講座「日本の昔はなしを読む」

講師 森正人さん(熊本大学名誉教授)

会場 くまもと県民交流館パレア会議室9

第1回 9月17日(水) 10時～11時30分

課題本『つるにようぼう』

矢川澄子再話・赤羽末吉画(福音館書店)

第2回 12月17日(水) 10時～11時30分

課題本『かさじぞう』

瀬田貞二再話・赤羽末吉画(福音館書店)

参加費 会員 無料

非会員 2回通し800円、1回500円

※会員に限りオンライン参加・アーカイブ視聴可



③ 企画講座

日時は原則第3水曜日の10時～11時45分
会場は熊本市立図書館集会所(予定)
会員以外の方も、500円(資料費)で参加できます。

5月21日(水)

絵本『ロバのシルベスターとまほうの小石』

(評論社)を読む

6月18日(水)

公開講座事前学習

昔話基礎講座(小澤俊夫氏講義より)

7月16日(水)

公開講座事前学習『つるにようぼう』を読む

8月20日(水)

ボランティア活動研修

10月15日(水)

幼年童話(絵本から物語への架け橋)

11月19日(水)

公開講座事前学習『かさじぞう』を読む

2026年1月21日(水)

『あたまをつかった小さなおばあさん』(福音館書店)を読む

2月18日(水)

『初音』に学ぶ「谷川俊太郎さんを偲んで」



④ 閉講講座

3月11日(水) 10時～12時
会場 未定
今年度を振り返って



⑤ 研究会活動検討会(オンライン)

研究会で実施する活動、会報掲載内容についての意見交換、新規活動の企画をします。

4月13日(日)、6月8日(日)、8月3日(日)、
10月5日(日)、12月7日(日)、2月8日(日)

⑥ 【公開オンライン講座】グリム童話の魅力

(2回＝8月、2月)

講師：竹内識晃さん(会員、東京家政学院大学
非常勤講師)

グリム童話を毎回1話取り上げ、比較民話学で読み解きます。昔話の用語も解説しながら、類話や絵本も紹介し、グリム童話の魅力に触れる講座です。開催日は会報・HPでお知らせします。会員外の方も無料で参加いただけます。

⑦ 昔話の基本文献を読む会(オンライン)

講師：竹内識晃さん(会員、東京家政学院大学
非常勤講師)



今年度から、昔話に関心のある方を対象に、昔話の基本文献を読む会を始めます。講師と一緒にテキストを読み進め、昔話への理解を深めます。今年度のテキストは、『ヨーロッパの昔話 その形と本質』(マックス・リュティ著、小澤俊夫訳、岩波文庫)です。開催日時と読む範囲は、会報・HPでお知らせします。



⑧ 子どもと大人の読書会(オンライン)

年間4回程度、子どもが選んだ本を、大人(会員)も読んで一緒に感想を語り合います。年代、経験等による感じ方の違いを知る刺激的な時間です。開催日は会報・HPでお知らせします。

⑨ びわの木文庫活動

毎月1、2回程度週末にオープンし、蔵書(児童書約6000冊を含む)の貸し出しを行います。学童クラブに対しては、数十冊まとめたの長期貸出も行います。



2 子どもと健全育成事業(ボランティア活動)

左記団体などからの依頼に基づき、おはなし会を開催します。

熊本市立図書館、熊本県立図書館

熊本大学教育学部附属支援学校(小・中学部)

熊本県立熊本支援学校、くまもと江津湖療育医療センター、その他小学校、児童館等

※ご依頼お待ちしております。

3 出版・販売事業(会報・ホームページ)

① 会報の発行(隔月刊)

奇数月の第4水曜日、年6回発行し、ホームページに掲載します。郵送希望の会員の方には郵送もします。

② ホームページ(HP)で情報提供

会報及び個別活動に関する情報をタイムリ―に掲載します。会員専用の「会員の広場」では、各活動のより詳細な記録やアーカイブした講座記録・動画などを掲載します。



4 ふるさとくまもと応援寄附金

(ふるさと納税での「支援のお願い」)

熊本県へのふるさと納税の際の使い道として、当研究会の活動支援を選択することができます。いただいた寄付は、公開講座の開催、おはなしボランティア活動、びわの木文庫の拡充などに活用します。支援団体指定方法については、会報末尾の2次元バーコードのリンク先を



ご参照下さい。

5年会費 (2025年4月～2026年3月)

正会員 (個人) 4000円

賛助会員 (団体) 10000円

ご寄付でのご支援もお待ちしております。

ご入会及びご寄付にあたっては、左記口座宛

にお振込み願います。



◆講座報告

「少年少女の夢と成長の物語」

— 絵本に描かれた夢の実現 —

日時 1月15日(水) 10時～12時

会場 熊本市青年会館第一会議室

参加者 10名

担当 有久 賢治



① 『木のすきなケイトさん』 (絵本読み聞かせ)

北カリフォルニアの森で育ち、木や草花が大

好きな少女ケイトは、カリフォルニア大学で学

び、女性初の科学者として1881年に卒業。

教師として赴任したサンディエゴは、ケイトの

力によって砂漠の町から緑の町に変貌してい

く。さらに、当地で開催された「バナマーカー

フォルニア博覧会」を緑豊かな会場 (庭園) づ

くりで成功に導く。

② 『ちいさな曲芸師バーナビー』

13世紀の中世、曲芸師の父を亡くした10歳

の少年が1人で生きていく術として曲芸をし

ながら旅し、修道院で無垢な信仰心を得る姿が

実在するように語られる。何百年も前からフラ

ンスに伝わる伝説が題材。パリの兵器廠図書館

に残る700年前の写本を参考にし、当時の少

年が歩いたであろうフランスの街並みや城を

スケッチして歩いて描いた作品。

③ 『オーラのたび』

著者のイングリはノルウェー、エドガーはミ

ュンヘン生まれ。2人はパリの美術学校で出会

い、結婚。アメリカに渡り、絵本制作を始めた。

イングリは幼い頃に父親に聞いた話をもとに、

少年オーラがラップランドを旅する冒険談に



ゆうちょ銀行

口座番号…01920041211

口座名 …熊本子どもの本の研究会

熊本銀行 託麻支店

普通口座番号…3015010

口座名 …(トクヒ)クマモトコードモノホン

ノケンキユウカイ

振込の際、通信欄に以下をご記載ください。

①氏名、②電話番号、③住所 ④メールアドレス

レス、⑤備考 (会報の郵送希望など)

★★★

ご質問等は、左記宛にお願いします。

メール: member@kodomonohon.org



■課題作品

① 『木のすきなケイトさん』 H・ジョゼフ・ホ

プキンズ文/ジル・マケルマリー絵/池本佐恵

子訳 (B.L出版)

② 『ちいさな曲芸師バーナビー』 バーバラ・ク

ーニー再話・絵/末盛千枝子訳 (現代企画室)

③ 『オーラのたび』 ドーレア夫妻 (イングリとエ

ドガー) 作/吉田新一訳 (福音館書店)

④ 『化石をみつけた少女』 メアリー・アニング

物語』 キャサリン・ブライントン作/せなあひこ

訳 (評論社)

《課題の視点》 普通の少年少女が困難な状況下

ながら、夢の実現を目指して生きていく物語や

伝説の実在感ある語り口 (narrative) が生かさ

れている作品を読む。

■各作品の概略や背景、逸話



仕立てた。オーラは雪と氷の世界に暮らす人々と交流し、成長していく。版画の挿絵が素朴で美しい。

④『化石をみつけた少女』



19世紀初頭の英国南部ドーセット州、メアリー・アニングは、10歳で亡くした父から教わったやり方で、海岸でアンモナイトなどの化石を掘って売っては土産物店の家計を助けていた。そして11歳で魚竜イクチオサウルスの全身骨格化石を発見する。大きなコマ割の絵で女性初格化石ハンターにして古生物学者の誕生を描く。その後も首長竜プレシオサウルスの完全骨格化石など、数々の古生物学上重要な発見をする。早口言葉「she sells sea shells on the seashore（彼女は海岸で貝殻を売った）」は、メアリー・アニングが由来とされる。

■夢に挑戦する少年少女から学ぶ



○〈境遇の打破〉バーナビーは中世、メアリーは19世紀と時代は違うが、貧困や父親の死を乗り越え、片や曲芸、片や化石掘りという特技を生かして自己を確立していく物語に、子どもが内包する強い力を感じる。

○〈少年の放浪と無垢〉バーナビーが修道院の聖母子像の前で、自分の唯一の捧げ物として見

せた曲芸に、奇跡を引き起こす神性を感じた。一方ラップランドを放浪するオーラは、北極圏の自然の驚異や恩恵、漁労の人々の温かさを感じ、人生に重要なものを持ち帰る。

○〈教育と女性の自立〉メアリーの時代の英国では、貧しい家の子どもは教会の日曜学校に通った。彼女も科学の本を借り、書き写して勉強した。彼女の化石発見はダーウインの進化論に影響を与えたという説もある。ケイトも女性が科学を学ぶことが難しい時代に大学で学び、教師を経て園芸家となる。教育は、子どもの夢を実現させる力となった。



（報告 有久賢治）

【参加者の感想】テーマに沿って、伝記ものとして『風をつかまえたウィリアム』（さ・え・ら書房）、成長を描くものとして『わたしを描く』（あかね書房）など読んでみた▼子どもがひとつのことに興味を持ってやっっていくことは大事だと思った▼ナラティブという言葉聞き、介護中、両親が昔好きだった歌を歌い、昔の話を語る姿を思い出した▼今日の絵本は、伝記でありながら教育的ではないところがいい▼子ども時代、好きなことに夢中になる経験をしてほしいと思った▼子どもに関心を持つ

たり、出会ったりした本が、その後の人生の軸になることはあると思う▼児童書だが、江戸時代の算数好きの女の子を描いた『算数少女』（ちくま学芸文庫）も面白かった▼自分が関心を持っていることが、自分の将来につながるのだと子どもが思える本があるといい▼児童文学は基本、夢と成長を土台にしていると思う▼子どものとき伝記を読むと、私は苦労していないし私には無理だと思っていた。



幼い頃に出合った本が今の自分たちに影響を与えているかもしれない。それぞれの思い出を語り合った。「小学生の時に背伸びして手にした本を読みこなせず、悔しかった思いが文学の研究を志すことにつながった」「大人になって様々な経験をすることで、幼い頃読んだ本の中の言葉の意味が分かることがあり、その瞬間が嬉しい」「幼い頃、目にした本のタイトルが今でも心に残っている」「小学校の登下校中、頭の中に巡っていた詩があった」「親に物語を読んでもらった経験が、本を読むことは豊かな時間であることだと感じさせてくれた」。皆の中に宿る本との大切な風景を、温かい気持ちで聞いた。

（報告 木村一恵）

◆講座報告

わらべうたであそぼう

日時 2月19日(水) 10時~12時

会場 熊本市立図書館集会所

参加者 11人

担当 古上美智代

へらべうたとは

◇童謡・唱歌との違い

童謡・唱歌は子どもの教育のために大人が作った、歌うための歌。わらべうたは、子ども達がつくりだしたもので、作詞も作曲も遊びも子ども達が考えたもので、日常生活や遊びのなかで何百年もの伝承を通じて磨かれてきた。

◇親子の温もり

愛情をもって歌われる素朴な歌や、あやし言葉は、乳幼児にとって何ものにも替えがたい貴重なもの。

◇遊びを通して成長

- ・遊びのルールや順番を守る
- ・協力する
- ・判断力や敏捷性を養う
- ・語を増やし、発音を明瞭にする
- ・前後・左右などの位置関係や方向感覚を養う



・他者や、他の立場への思いやりをもつ

◇少ない音と狭い音域

子どもの遊びから生まれた歌なので、子どもが無理なく歌える音でメロディがつくられている。声帯に優しい。「レ」から始まるものが多く、「レ・ド」を中心に少ない音でできている。

◇本来無伴奏

子どもの遊びにあわせて、室内、室外、どこでも即座に歌うことができる。子どもと向き合っ、お互いの声をよく聞きながら表情豊かに歌うと、歌の心がよく伝わる。

◇遊ばせ遊びについて

1人の子どもと向き合っ、その子が満足するまで繰り返して遊ぶ。その子との時間を大切にするといいこと。心地良さに満たされながら、人やことばに対する信頼の確立となる。

◇「繰り返し」ということについて

『初音』20号「わらべうたの力」ことば・あそび・音楽〜羽仁協子氏の講演録より

「繰り返すことを大人はとかく、単調であるという風にとりまします。しかし、繰り返しが多いということは、子どもにとっては非常に嬉しいこと。いい遊びがあればずっとその繰り返して遊びます。子どもはまだ、生まれて二年か三年経



ただ、明日どうなるかわからない。子どもにとって明日も今日と同じなら、とても嬉しいことなんです。だからわらべうたはとても子どもを安定させます。」

◇おはなし会の中でのわらべうた

・視覚や触覚に訴える小道具をうまく取り入れる。

・季節をたのしむ

・わらべうた絵本の活用

＊本来の遊び方とは違っていても、わらべうたに込められたものをきちんと伝える

◇美習くわらべうたであそびましょう

・オデコサンフマイテ・ココハトウチャン・ボウズ・オスワリヤス・馬はとしとし・こりやどこの・イッチクタツク・タンキボンキ・ネズミネズミ・オヤユビネムレ・カタドンヒジドン・ちいさいまめ・やなぎのしたには・カラスカズノコ・ぼうさんぼうさん

＊参考図書

『幼稚園・保育園のわらべうたあそび』畑玲子・知念直美・大倉三代子著(明治図書出版)

『いっしょにあそぼうわらべうた』

ユダアイ芸術教育研究所著(明治図書出版)

(報告 古上美智代)



〈参加者の感想〉実際に「鬼きめ」をして、参加者みんなで遊び、懐かしく、子どもに戻ったような楽しい時間だった▼最近のお話は赤ちゃんが多い。お母さんは、一つか二つ、同じ歌を覚えて歌ってあげてほしい▼わらべうたには意味がある。生きていく知恵がある▼子育て中、泣き止まない我が子と一緒に泣いたこともある。わらべうたを口ずさんだら、子どもが泣き止んだ▼繰り返すことは、子どもにとつて嬉しいこと▼年齢の高い子が、小さい子にしてあげてもよい▼わらべうたには、いろんなパリエーションがある。わらべうたに込められた意味を知り、伝えていくことが大切。

自分が、今、向き合っている子ども達のことや、自分の子ども時代のこと、育児の思い出等を話しながら、改めてわらべうたの魅力や大切さを感じた時間でした。

(報告 倉岡寿雅子)

◆閉講講座 報告

1年を振り返って

日時 3月12日(水) 10時〜11時45分

会場 熊本市青年会館第一会議室

参加者 12人



〈プログラム〉

一 ろうそくのうた

二 人形を使つて

① 「このここのこ」(わらべうた)

② 「もぐもぐぱくぱく」『ことばと心を育てる』

櫻井美紀 語り手たちの会

③ 「くまさん」『まど・みちお全詩集』理論社

三 絵本

① 『ゆつたはともだち』

(きたやまようこあかね書房)

② 『どろぶつ しりとりえほん』

(敷内正幸 岩崎書店)

四 語り

「ハナタレ小僧様」

『肥後の民話』より 荒木精之編 未来社

五人形と小道具を使つて 西坂治美

① 「こんこん小山のこうさぎ」(わらべうた)

② 歌「赤い鳥小鳥」(北原白秋)

③ 手遊び「二羽の小鳥」(わらべうた)

六 語り

「牛方とやまんば」『おはなしのろうそく8』

松谷みよ子再話 東京子ども図書館

七 詩

① 「きつねときこり」② 「こやぎとおおかみ」

有久賢治



木村一恵

『いそつぷ詩』谷川俊太郎 小学館

八 語り

「二つの花」(今西祐行 ポプラ社)

【参加者の感想】お話ボランティア活動は、自分や子どもが楽しむ事が大切であり、語り手は聞き手に育てられる面が大きい▼〈学べる場

の存在、それを支える仲間に有り難さを感じて

いる▼子どもの興味に向き合い、新しい知識を

与える場の提供に今後も携わっていきたい▼

大病を患い「生きることがリハビリ」と実感し、

地元で文庫開設予定。(報告 堀畑真紀子)

古上美智代

古上美智代



古上美智代

「寄贈ありがとうございます」

●東京子ども図書館 様より

『東京子ども図書館 50年のあゆみ』

【DVD】ドキュメンタリー映画「松岡享子

お話の種まきをした人」

【CD】『語りをたのしむ 松岡享子のお話』

(三びきのクマの話/金の不死鳥)

●森勝寛 様より

『魔女のお茶会』(木野かなめ ステキブックス)



4月、5月の活動の案内

○講座 開講講座

日時 4月23日(水) 10時～11時45分
場所 熊本市立図書館集会所

今年度の活動紹介とおはなし会のミニ講座
会員外の方も無料で参加できます。

○講座 絵本『ロボのシルベスターとまほうの

小石』(評論社)を読んで

日時 5月21日(水) 10時～11時45分
場所 熊本市立図書館集会所

会員外の方も500円で参加できます

*講座申込アドレス kouza@kodomonohon.org

○子どもと大人の読書会(オンライン)

日時 4月13日(日) 10時～11時

課題図書:『すばらしき父さん狐』(ロアルドダール)

○研究会活動検討会(オンライン)

日時 4月13日(日) 11時～12時

*申込アドレス zoom@kodomonohon.org

○おはなしボランティア「びわの木」

・5月2日(金) 11時～11時半

熊本市立図書館(6歳児・プレママ・プレパパ)

○「びわの木文庫」貸し出し

4月26日(土)、27日(日) 午後1時～5時

いらつしやる方は、事前にご連絡願います。

本はともだち!

1月中旬、研究会のアドレスに「26年前に

『子どもがみつけた本』に寄稿させていただきました。森と申します。」という書き出しで始まるメールが送られてきました。2月26日付で出版される自著第1冊である『魔女のお茶会』(木野かなめ ステキブックス)を研究会に贈呈したいとお申し出でした。

『子どもが見つけた本』は、1999年に研究会が出版した本です。研究会設立15周年を記念した同名の講演会記録に加え、全国に募集して寄せられた原稿の中から113編が掲載されています。その原稿のほとんどは、母親(ほんの少しだけ父親)による子育てものなのですが、森さんの場合、ご自身が5、6歳の頃、お母さんに読んでもらっていた『生きるんだ。ポんちゃん』にまつわる思い出を17歳の時に書いて投稿されています。書籍の中に自分の書いた文章が掲載されたという経験が、小学生の頃からの夢だった執筆活動に森さんを後押しし、自著の出版の実現に繋がったとのこと。研究会の活動を引き継いでできているものとして、本当に嬉しい話でした。早速、最近の研究会の活動の紹介とともに御礼のメールを差し上げたいです。

将来的には研究会の活動にも参加したいとの返信もいただきました。

3月8日(土)に熊本に帰省すると、事務局に『魔女のお茶会』が届いていましたので、早速読ませていただきました。人間との関係のあり方で対立する可愛らしい魔女たちが戦い合う小説で、ボードゲーム版が先に出ています。ライトノベル好きの私は、2日間であつという間に読んでしまいました。悪役も根つからの悪人ではなく、そういう行動を取る理由があったのだということが私には共感できました。森さんからは、次作の児童文学作品の構想についても少し教えてもらいました。面白そうなキャラクター設定なので、本になったものを読むのが楽しみです。

(横田 真)

■編集||金子・上林・横田 《イラスト》安田

特定非営利活動法人

熊本市子どもの本の研究会 発行

〒861-8029

熊本市東区西原1丁目15の24

電話 096(382) 5090

